



議 会 日 誌

平成27年7月～9月

- | | |
|--|-------------------------------------|
| 7月 2日 南牟婁郡交通安全対策協議会総会及び委員会 (御浜町) | 8月 27日 紀南環境衛生施設事務組合定例会 (新宮市) |
| 8日 熊野川流域ダム湖下流団体協議会定期総会 (新宮市) | 28日 パナソニックエコソリューションズ電材
三重井内工場内覧会 |
| 10日 交通安全週間出発式 (御浜町) | 子ども議会 |
| 13日 三重県町村議会議長会理事会・行政視察
(朝日町) [14日まで] | 港湾・井田海岸浸食対策特別委員会 |
| 14日 国道169号線改良促進連絡協議会要望活動
(東京) [15日まで] | 9月 2日 全員協議会 |
| 21日 自治体議員研修 (津市) | 3日 教育民生常任委員会 |
| 23日 熊野川河口に橋を架ける会要望活動
(中部地方整備局・国土交通省他) [24日まで] | 総務産業常任委員会 |
| 27日 熊野川河口に橋を架ける会要望活動
(近畿地方整備局他) | 7日 議会運営委員会 |
| 8月 2日 中能登町祭「織姫夏ものがたり」 | 近畿自動車道紀勢線建設特別委員会 |
| 3日 三重県町村議会議長会定期総会 (津市) | 8日 J A三重南紀統一選果場再整備工事竣工式 |
| 7日 国道169号奥瀬道路Ⅱ期区間の開通に伴う
観光振興に関するイベント (大阪市) | 13日 鶴殿地区敬老会 |
| 15日 紀宝町花火大会 | 14日 南牟婁郡交通安全対策協議会委員会 (御浜町) |
| 17日 小野橋開通式 | 15日 第3回定例会・第1日目 |
| 18日 議会運営委員会 | 16日 第3回定例会・第2日目 |
| 20日 紀南介護保険広域連合定例会 (熊野市) | 17日 第3回定例会・第3日目 |
| | 24日 地方自治講演会 (津市) |
| | 25日 災害復興対策特別委員会 |
| | 30日 紀南病院組合議会 (御浜町) |
| | 紀南社会福祉施設組合他一部事務組合議会 (御浜町) |

新宮紀宝道路



榎本 健治 議員

・新宮紀宝道路(河口大橋)について

平成27年第3回紀宝町議会定例会は9月15日に開会しました。第1日目は、初めに、議長報告と各委員会委員長報告があり、次いで、町長から、第2回定例会以降の町行政各般にわたる報告がありました。その後、一般質問が行われ、第2日目の16日にわたり8人の議員が、質問に立ち、諸課題について、当局の取り組みと考え方を質しました。引き続き、条例の一部改正4件の議案を原案どおり可決しました。第3日目の17日には、一般会計及び特別会計(1件)補正予算、一般会計及び特別会計(6件)決算認定、会議規則の一部改正を原案通り可決し閉会しました。

②
いただくわけでございます。その際、幅杭が入った後、土地の鑑定が入ります。それから建物評価と同時に植木、植林、植樹類の調査も合わせてさせていただいて、これらの作業が完了した地権者の方から、順次用地買収のお願いに伺うというふうにお聞きをしています。

議員

代替地の確保で、現在、紀宝町が用地について取得しているのか。どれくらい確保できているのか。

産業基盤整備担当理事

平成26年7月1日、3日に住民説明会で掲示した計画平面図について、平成26年7月9日から8月20日までの30日間、土、日、祝日を除いて、付近住民の方々など延べ333人に閲覧をしていただいております。そのうち、62人の方から、67件のご意見、ご要望を頂いております。移転についてのご意見、ご要望が24件と一番多く頂いております。町としても、出来る限りご要望にお応えできるよう、代替地の確保に努めてまいります。

議員
平成25年5月に夢の河口大橋が事業化になり、平成27年6月7日、新宮紀宝道路の事業着手式、道路中心杭打設式が挙行されました。今年度、橋梁部分の設計が行われていますが、今年度予備設計がでるのか。

産業基盤整備担当理事

予備設計は概略設計から更に細部を突き詰めて、図面関係の作成や、概算数量、概算工事費等の算出を目的として設計をさせております。橋梁等構造物がくる部分は、土質調査と地質調査等を進めていただいております。

現在、町内、鵜殿地区、飯盛地区におきまして22か所でボーリング調査が行われている。更に4地区ほど、追加箇所があるというふう聞いており、土質調査が終わりましたら、ほぼ予備設計というの完了してくると聞いております。

議員

幅杭は、予備設計が発表されてから、どれくらいの期間で打設されていくのか。そして何箇所くらいになるのか。

産業基盤整備担当理事

幅杭につきましては予備設計終了後、皆様に予備設

計についての報告をさせていただきます。住民説明会があるわけでございます。予備設計の住民説明会終了後直ちに幅杭の設置に入りたいというふうにお伺いしています。

議員

幅杭打設後、直ちに用地交渉に入っていくのか、併せてタイムスケジュールについてお伺いします。

産業基盤整備担当理事

用地買収につきましては、幅杭を各土地に入れさせていたいただいて、そこにある構造物等の作業、建物とか、また庭木等の評価をさせて

議員

住み慣れた鶴殿地内で、確保できるような取り組みも進めていただきたい。またご近所さんと住み慣れた地域の方々も同じところへ行きたいという方もいますので、そういう思いをしっかりと受け止めて進めていただきたい。次に残地、そして三角地の対応について、当然、残った部分、家が半分入ったとか、三角地の部分についての対応は、どのように考えているのか。

産業基盤整備担当理事

現在予備設計中でありますため、残地、三角地等がどこの箇所、どれくらいでくるのかは、まだ町の方では把握しておりません。ただ、予備設計を進めるなかで、例えばこの両側に道路があつて、真ん中で分かれるというふうには、一方だけがかつてくる時に、残地がないようなかたちの予備設計を進めていただいて、できるだけそういうふうなものがないように、設計をしていただきたいと要望をさせていただいている。

議員

住民の不安の一つに、工

事中の振動、騒音、粉塵などがあげられております。不安のないように配慮をいただいで、工事を進めていただきたいが。

産業基盤整備担当理事

振動、騒音対策は、今も熊野川では、激特事業が進んでおります。大型トラックの進入の際には揺れたり、埃、音の問題は当然、ついて回る問題でございます。近隣家で生活される皆様にも、十分配慮をさせていただきますと共に、十分な対策を取っていただくように粉塵対策、騒音対策にしても、国のほうへ要望をさせていただきたい。

議員

機能回復道路、排水路、避難路について町管轄部分もございまして、できるだけ、住民の要望や意見、そして希望に沿ったかたちで進めていただきたいと考えます。

産業基盤整備担当理事

これまで住民の皆様からのご意見では、排水関係についての不安が、平成23年の台風第12号の時の水の量

から、一番心配をしていただいでいるところがございます。機能回復を図る上において、この高規格道路が、完成して不便になったといわれなく、皆さんに喜んでいただけるような周辺整備も必要だと考えております。

議員

現在、新熊野大橋と旧熊野大橋がございますが、旧熊野大橋は、かなり老朽化が進んでいくと思うんですが。今後どのようになっていくのか。

町長

旧熊野大橋ですが、これは昭和10年に完成、開通されております。実際80年の年月を経ているわけでありまして、水害にも、地震も幾度か遭っております。それから爆弾も落ちて、古いコラムから聞いたこともございます。一番問題になったのは、4年前の台風12号で老朽化というかたちのなかで、もう現在耐えられない状況になっている。おそらく通行が難しくなるだろうと、そういうお話を国交省からもいただいで

いるところで、できるだけ早く、私どもとしても、それに代わる代替道路をしっかりと造って、交通に影響がないように取り組んでいきたい。

この他に、「全国学力状況調査について」の質問がありました。

※榎本議員の一般質問については、本人のホームページに掲載しています。

(<http://www.enomotokenji.com/ipan.htm>)



市川 潔 議員

・町表彰について
・プレミアム付商品券について

町表彰

議員

合併10周年にあたり、町功労にあたられた方に表彰を考えておられると思いますが、表彰規定の運用の現状を踏まえて、今後についてお尋ねいたします。

総務担当理事

平成25年5月に、紀宝町表彰規程を公布、施行させていただきます。町政の振興、社会福祉の向上、産業の振興、教育、学術、文化、スポーツの進展

等に関して、その功績が特に顕著な個人、または団体を表彰し、本町の発展と町民福祉の向上を図ることを目的としており、表彰は、周年記念式典や適宜な時期と定めております。表彰規程整備後の運用は、現在のところ、来年1月10日に予定しております、町制施行10周年記念式典を考慮しており、功績があった個人や団体などを表彰させていただきますと思います。

議員

町のほうで考えていただきたいのは、何十周年とか、その年の年じゃないときにも、随時この表彰規程に基づいて考えていただければと思います。いかがでしょうか。

総務担当理事

表彰規程のなかで、周年記念式典や適宜な時期という文言も入れさせていただいて、周年記念式典以外でも十分検討し、表彰させていただきます。

議員

小さな親切運動の日があるが、町においても表彰規程のなかに、当てはまる部分があったらいいなと感じますが、担当の答弁をお願いします。

総務担当理事

議員からご提案ありました。小さな親切を長年続けられている方々にも当然、考えていかなくてはいけないと思いますので、十分に検討させていただきますと思います。

議員

町長表彰ということで、町長のご答弁をお願いします。

町長

町政の振興発展のために、ご活躍いただきました皆様方に対し、本心に心から感謝の気持ちを表すのも大事なことです。と思います。小さな親切の皆様方については、私どもも気が付かないところもあるかと思えますので、皆様方のご意見を拝聴するなかで、感謝の意を表していける状況にさせていただければありがたいと思っておりますし、検討してまいります。



プレミアム付商品券

議員

8月に完売となり、12月末までに使用され、紀宝町において活性化がなされると思いますが、現状と引き続き、この様な策が必要だと思えます。がどうお考えですか。

企画調整課長

プレミアム付商品券の発行は、国からの交付金を紀宝町商工会に補助金として交付させていただきます。地域消費喚起・生活支援型の事業として商工会が主体となって事業を実施していただいております。

一次販売は、7月6日から31日まで、二次販売は8月3日から販売し、8月17日には、2万1620セットを完売し、延べ2815世帯の方に1億2972万円の商品券をご購入いただいております。商品券の換金状況は、8月末現在で5484万円、発行額の42.3%となっております。この商品券発行事業では、今後、紀宝町商工会において商品券利用についてのアンケート調査を実施し、取り

扱い加盟店の意見をまとめて消費喚起効果検証をおこなうこととしております。今回、この事業では、町内で約1億3千万の商品券が消費されることとなり、地域の経済に直接訴えかける非常に有効な事業であると考えます。今後、国からの交付金がなくなるなかで、この商品券発行事業のような地域消費喚起策をどのように取り組んでいくのか、先程のアンケート結果や町民の皆様のご意見も伺い、紀宝町商工会をはじめ、関係団体の方々とも協力しながら、検討してまいりたいと考えております。

議員

国のほうに対しても、来年以降も国からの予算もおりるように、町からの働きかけもお願いしたいし、町としても厳しいなか、活性化のことでの思いを踏まえて、町長からのご答弁いただきたい。

町長

今回、プレミアム付商品券、地域消費、また生活支援型ということでさせていただきました。ご好評をいただき大変嬉しく思っております。国からの財源によって運営をされたかたちでございます。また機会があれば、この消費喚起の部分についても、国のほうに「非常に効果があったので、単年度じゃなく、もう少し引き続きやってください」というようなお願いをしてみたいと思います。

議員

要は単発的なものじゃなくて、この地域の商工業の方々も連続性を望んでいるわけです。連続性があるように、できるだけ速やかなかたちでアンケート調査をとっていただきたいと思えました。いつ頃なされるのか。

企画調整課長

事業者様のほうからのアンケートは、今現在、商工会のほうに換金作業にこられる際にご意見等を伺い、買われた側の住民サイドの方には、こ

の12月が終了してからのアンケートをとるということで、今の作業を進めています。

議員

このプレミアム付商品券に引き金を発して、紀宝町内の活性化がなされることを願います。



原 章三 議員

- ・ 道徳の教科化について
- ・ 介護保険料について
- ・ 新宮紀宝道路について
- ・ マイナンバー制度について

道徳の教科化

議員

道徳の教科化については、2018年度は小学校、2019年度からは中学校で「特別の教科」である道徳を施行する。道徳の教科化となると、一般科目と同様、評価されることとなりますが、現在、国、県の指導はどうなっているのですか。

教育長

今聞いているところでは、

記述式の評価ということ、文章表現によって子どもに伝えていく方向になるかと把握しています。

議員

評価となると学校現場として非常に難しい問題になるのではないかと。教師としても教科書の使用義務が伴い、子どもたちの行動、態度などを管理していく。また評価方法をめぐって悩みや問題点が出てくるのではないかと。

教育長

教師がある一定の価値観を示してそれに賛同、あるいはよく理解して反応する、そういった子どもだけが高い評価となる。そういったことにならないよう配慮されていると聞いております。

議員

今回の国が教科化、評価するという狙いは、国が価値観を選定し、子どもたちに一方的に教え込む教育を作り出すのではないかと。子どもたちを巡る激しい学力競争、学力に偏重しがちな風潮が進められる中、建前だけを正解とする無力な教育とならないかと。道徳性の価値が個人的道徳、社会的道徳があるなかで個人の自

介護保険制度の見直し

議員

己責任だけが追及されるのではないかと。また子どもの貧困率は2012年16・3%にもなっている。学習すら保障されない状況になっていきます。私たちが戦後築いてきた平和な日本、人間の価値観、到達点を学んで現実に即した生活指導をおこなっていただきたい。

本年8月から、生活保護老齢福祉、生活保護受給者、老齢福祉年金受給者、年収80万円以下の基礎年金受給者、市町村税非課税世帯を対象に施設サービスや短期入居サービスの食費、居住費負担を軽減してきた補足給付が改悪されました。またこれまで一律1割負担が年金収入280万円以上のひとが2割負担となった。預貯金も1千万円以下となり証明するものとして預貯金のコピー添付となった。

新宮紀宝道路

議員

さらに2016年からは遺族年金、障がい者年金も加算されることとなりますが、町としてこれらをストレートにやっているのかお聞きします。

健康福祉担当理事

対象人数は負担割合証1割から2割なった方が申請いただいた759のうち45名です。食費、居住費負担は181名のうち1000万円以上が6名です。この制度は厳しい介護保険財政運営等のなかで一定以上所得や資産のあるかたに相応の負担をいただくものであり趣旨についてはご理解いただいているものと考えます。

企画調整課長

事業実施にあたり国交省では住民説明会を開催してきました。今年27年3月には鶴殿3組主催意見交換会、7月には団体から申し入れでルート関係で様々な意見をうかがいました。こういった会議で、道路の機能回復、排水路、代替地、避難路についてご意見をうかがいました。

議員

概略ルートが示され、予備設計が近く出され示されたルートで工事が着工されていくと巨大な、幅60m、高さ15mの構造物ができてきます。地域住民の方からは環境変化に対する不安、疑問が寄せられると考えます。高齢化、地価の低廉化が進みこのような不安に対し今後丁寧な説明をしていくべきではないかと。

産業基盤整備担当理事

巨大構造物では高さ15mの盛土になってくると考えますが、真摯に住民の立場に立って事業推進を進めていきたい。

議員

今まで地域住民との話し合いでは当局として理解を得られない部分もあったのではないかと。

か。今回のルートに至った経緯、住民に理解を得られるような回答をしたのか。今後話し合いをすすめていくべきだ。無理に強行することの無いよう、また将来地域住民に禍根を残すような道路建設であってはならない。基本ルールの住民との話し合いを今後すすめていただきたい。

マイナンバー制度

議員

制度実施でコンビニでも住民票が交付できると聞いていますが、コンビニ支払い手数料、データ回線連携費用については国がするのか、町で負担するのか、如何ですか。

税務住民課長

コンビニ連携については費用等も含めて具体的には協議されていません。

議員

コンビニとの回線で情報が不正流出した場合、誰が負担を負うのですか。

税務住民課長

民間との場合、回線が別ですが連携部分については具体的に示されていない状況です。

議員

この制度、情報漏えいや監視社会などへの不安など根本的な欠陥が多すぎます。住民にとっては効率が全くありません。リスクを誰が負うのか。問題が発生した場合の解決もできないまま進めていくのは問題だ。中止すべき制度と考えます。

※この他に、「ふるさと納税について」の質問がありました。



萩野 進也 議員

・集会施設運営について

集会施設運営

議員

町内には19の集会施設がありますが、これらの集会施設は、指定管理者制度により運営がなされているところですが、集会施設の運営状況について、財政面から見て健全に運営がなされていますか。見解をお願いいたします。

総務担当理事

本町には指定管理者制度により、自治会等により管理を

集会所で17施設、防災センターで2施設、合わせて19施設ございます。ご質問の集会施設の財政運営について、集会施設等の施設使用料収入により管理費用が支出できているのは1施設だけとなっております、その他の18施設については、収支の不足分については、前年度からの繰越金からの補てんや、自治会費の繰り入れ、住民からの施設管理費徴収により収支を賄っているのが、現在の状況になっております。

議員

集会施設は地域活動の拠点です。地域コミュニティの中心です。町内各地区最小単位での地域活動の拠点です。そしてその地区において、色々なことについて、なくてはならない大変重要な役割を果たしています。今、その集会施設の運営について、悲鳴が上がっているというか、運営に赤信号がともっているところがあります。集会施設は地域活動の拠点でありますから、運営がかんばしくなくなると、地域の活力が低下していくことにつながります。それではこれから町内

19の集会施設の収支報告書をもとにした、各集会施設の財政の現状について申し上げます。その前に、集会施設の建設に当たって、地元の負担があったかと思いますが教えてください。

総務担当理事

19施設のうちの集会所といわれる集会施設17につきましては、建設費等につきまして一定の地元負担金を支出していただいております。

議員

指定管理者制度により運営されている19の集会施設のうち、1箇所につきましては収支報告書において収入、支出ともにゼロになっていましたので、18の集会施設の数値状況をもとにして申し上げます。収支報告書の収入につきましては「前年度繰越金」「使用料収入」「その他の収入」です。18の集会施設の平均値で申し上げます。前年度繰越金が35万3千円、使用料収入が8万6千円（その他の収入の利息等を含む）です。ですから、集会施設の一年間の実質収入は、使用料収入の8万6千円です。一方支出につきましては「水道光熱費」

「その他の支出」です。支出について、18の集会施設の平均値で、水道光熱費が22万3千円です。水道光熱費については毎年必要な「固定経費」です。しかるに、収入の部の使用料収入8万6千円から支出の部の水道光熱費22万3千円を差し引いたマイナス13万7千円が実質の赤字です。しかし、その赤字分については繰越金を充当したり、区等からの助成金等によってまかなっているもので、全体から見れば、債務超過に陥らずにやっつけてこれるわけです。しかし、前述の18の集会施設を持つている地区につきましても、人口の多いところもあれば少ないところもあります。言い換えれば「体力の強いところ」と「弱いところ」があることとなります。体力の強いところは、区等からの助成金でやり繰りできますが、そうでないところは、年々厳しい状況になっています。町内それぞれの地区にはそれぞれの事情があると思いますが、使用料収入だけで1年間の経費を賄っていけるのは1集会施設だけしかありません。住民は、区費と合わせて集会施設

運営費も払わなければならなくなることも、近い将来予想されます。そこで、提案します。町をはじめ公共団体が集会施設を使用することが、年間にすればかなりの回数であると思います（移動図書館、移動支所、選挙、健康診断）。そのようなことで集会施設を使用したときは、電気やガス、水道、トイレ等を使います。集会施設を使用したときは、その集会施設の使用料基準に基づいて使用料を払っていただくことが出来ません。体力の弱い集会施設にとっては少しの額であっても大変ありがたいことです。すべてを町当局に願います。訳ではありません。いかがでしょうか。

総務担当理事

今回回答させていただくにあたって、各集会施設の財政運営は大変厳しい状況というのは共通の認識とさせていただきます。町では住民の利便性を考えて、効果的に行政サービスを行うために、現在移動支所や各種の相談業務、教室業務、健康診断、選挙等に町内各地域の集会施設を使用させていただいており

ます。住民サービスの一環というかたちでしたので、施設利用料の支出は行っていません。しかし、指定管理者による管理費用につきまして、自治会費からの繰り入れや住民負担により維持がされている。または維持していかなくてはいけないという現状を踏まえ、町が利用した場合の利用料支払いについては、検討してまいりたいと思います。使用料基準は各集会施設によって相違がありますので、町が使用する場合は使用料を統一していただけないかと、そういうことも踏まえて、十分に検討させていただきたいと思えます。

議員

有難うございます。地域の活力が損なわれていけないように、そして、精神的にも現実的にも紀宝町が元気であることを願って、私の質問を終わります。



浅田 和江 議員

・マイナンバー制度について
・町民防災会議について

マイナンバー制度

議員

後2週間余りでマイナンバーの通知が送付されます。これまで役場の方に問い合わせがありましたか。

税務住民課長

窓口、税務住民課への問い合わせは、今のところございません。

議員

今はまだ、実感がわかないのだと思います。また新しいことが始まるので、漠然とし

た不安があるのではないかと思います。運用が開始となれば、疑問も出てくると思います。今後、周知のためにどのような取り組みや広報を考えていますか。

税務住民課長

10月から交付される通知カードや、個人番号の内容説明と活用方法を周知していきたい。次に平成28年1月から確定申告や雇用保険などでの活用、平成29年1月から関係の情報連携内容、平成29年7月からの地方公共団体間での情報連携について、周知していく必要があると考えます。さらに各社会保障制度の運用、活用方法については、具体的な内容が決定しだい随時情報提供を行っていきたく考えています。又、通知カードや個人番号カードは原則生涯にわたって同じ番号を使い続けることや行政機関への申請については、本人を確認する重要なカードであり、盗難、紛失など取り扱いについて周知を図っていく必要があります。高齢者の方々については、関係者、関係各課と連携して周知広報をしていきたい。

議員

マイナンバー制度の広報が不十分だと感じます。インターネットを利用する人であれば、さまざまな情報を得ることができそうですが、そうでない人にとっては、テレビや新聞、広報、口コミが情報源になると思います。ネット上にはたくさんの方が公開されていますが、特に注意してほしい点をピックアップして広報していく必要があると考えます。情報が届きにくい対象として、高齢な方がいます。平成28年1月からは保険申請などで個人番号が必要になると聞きました。番号が届いていなければ手続きの遅れにもつながると思います。役場の担当者から住民一人ひとりに説明することは、困難なことだと思います。介護事業者さんなどと協力して、声掛けをしていただくといいと思いますが、いかがですか。

税務住民課長

制度の周知徹底がされていない現状で、職員研修、福祉関係の施設など研修会が始まってきたばかりです。高齢者に関係した福祉施設とか、福

祉施設に入所している方に関わる方との連携をするなかで、周知徹底を今後検討していく必要があると考えています。関係各所、団体と連携し、随時いろんな周知をさせていただきますたいと考えています。

議員

特にお年寄りの方ですと、信頼関係のできた介護スタッフから話を聞く方がしつかりと入りやすいのではないかと考えます。よい連携をして、周知に努めていただきたいと思います。

町民防災会議

議員

町民防災会議は、地域や組織の代表の方が中心となって進められていくと思います。しかし、ここに参加しない方にも関心を持って、一緒に取り組んで頂くことが大切だと考えます。会議に参加できない方にもどのように関わっていただくかお考えでしょうか。

総務担当理事

町民自らが、自分の命は自分で守るという防災意識醸成を図ることを目的に、町民防災会議を設立することにいたしました。大災害が発生した場合、町民の災害リスクを減少させるためには、自分の命は自分で守る、自分たちの地域は自分たちで守るという防災意識を醸成していくことが、安心、安全な町づくりに必要なと考えております。町を挙げて防災に取り組むということを知っていただくことが重要と考え、8月7日に講演会を開催し、広報きほう9月号にキックオフ講演会の開催と町民防災会議設立の記事を掲載し、周知を行いました。また広報きほう8月号から、紀宝町防災行政総合アドバイザーの松尾一郎氏による、防災講座の掲載を始めており、一人でも多く防災を理解し行動いただく、また町民防災会議に参画していただけることを期待しております。次に、町内を4つのブロックに分け、ブロック会議を設けます。自主防災組織による活動により、皆様の防災意識が向上されていると思いますが、

地域特性に応じた災害リスクなどの課題をとらえ、取り組みを進めて防災力の向上を図っていくことを期待しております。その構成員は、自主防災組織、自治会など、色々な組織や分野の方などを予定しており、多くの方に、ご意見をお寄せ頂き、参画頂けるものと考えております。

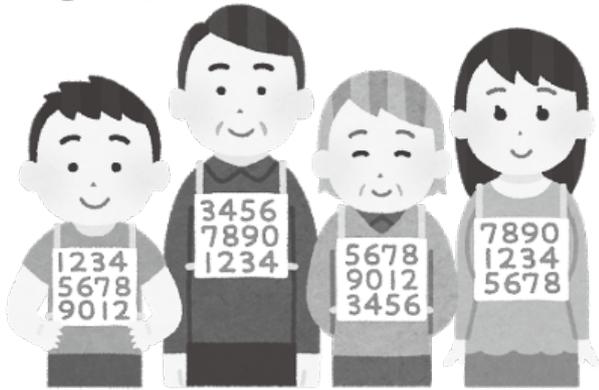
議員

講演会の資料に、牧ノ原市の津波防災町づくり計画書で、紀宝町というブロック会議に当たるような「サロン」に参加できない市民からもテーマに沿ってアイデアを募集する仕組みになっているとありました。紀宝町防災会議においても、会議に参加できない住民さんからも意見を出していただくような取組を取り入れるような考えはありますか。

特別参与

住民全てが同じ温度の防災に対しての考えを持っていただくことは、非常に必要だと認識しております。住民全てに行き渡るために、防災隣組というか、お互いに声を掛け合う取り組み、お互いに意見を述べ合える、身近で話し合

マイナンバー



える仕組み作りを積み上げて
いって、地区の防災会議にな
り、またブロックの防災会議
になっていくということから、サロンのにはなりません
が、隣組で防災についてい
ろいろと語り合える仕組み作
りに取り組んでいきたいと考
えております。



塩野 真 議員

・ 獣害対策について
・ スポーツ少年団
について

獣害対策

議員

町内の獣害の状況はどうで
すか。

産業基盤整備担当理事

14件受け付けており、本年
度は多い状況と捉えておりま
す。

議員

捕獲数はどうですか。

産業基盤整備担当理事

捕獲計画数ニホンジカ1
9頭に対して94頭、ニホンザ
ル40頭に対して15頭、イノシ

シ205頭に対して103頭
でございます。

議員

人的な被害が出た場合、具
体的な動きがあれば教えて下
さい。

産業基盤整備担当理事

紀宝警察、地元猟友会の皆
様にご協力をいただき、町職
員も警戒を強めて被害の防止
に努めます。

議員

獣害による人的被害が出た
とします。無線放送で知らせ
る、現場に急行する、各機関
の連絡等を事細かに決めてお
かなければならないと思いま
す。鳥獣による住民の生命・
身体・または財産にかかる被
害が生じ、または生じる恐れ
がある場合の対処方法を明確
に記載して、シミュレーショ
ンしておくといいと思いま
す。獣害対策で大事なものは、
住民の方と一体になってやる
ことです。またそれをやり続
けることだと思います。自治
体の活動内容を見てみると非
常に膨大です。住民への情報
発信、被害防除対策の提案、
生息環境調査、緩衝帯の整
備、捕獲体制の構築、研修へ
の参加。これだけの業務を、

行政の職員がやっていくとな
ると大変な状況だと思いま
す。他の市町ではシルバー人
材、NPOまたは他の団体と連
携して人員を確保している
という報告もあります。

産業基盤整備担当理事

毎年2名ずつ、猟免許取得
して人事異動でも次の免許所
持者がいる体制を取らせてい
ただいています。三重県の紀
南猟友会紀南支部との情報交
換、シルバー人材センターと
の協力、若い担い手の方の狩
猟免許取得などで獣害対策を
進めていかなければならない
と考えます。

スポーツ少年団

議員

スポーツ少年団の加入率の
推移、または現状はどうで
すか。

教育課長

町内全小学生の児童数57

0人中219人、加入率は
38・4%となっております。
過去5年間で8・8%減少し
ています。

議員

スポーツ少年団の加入者を
増やすために、教育委員会だ
けでなく、各スポーツ少年団
と魅力ある取り組みをしてい
かなければならないと思いま
す。基本的にスポーツ少年団
は小学生以上ですが保育所、
幼稚園の子ども達、中学生、
高校生の部活動の受け入れ
等、門を開いて拡大してい
く。体験会の実施、情報発信
なども大事な役割になってく
ると思います。教育委員会
どのようにお考えですか。

教育課長

町内スポーツ少年団の活動
内容を一覽でまとめたチラシ
を配布、各少年団作成の募集
案内等を掲示する取り組みを
行っています。各スポーツ少
年団の協力を頂くなかで体験
会等を実施していくことによ
って、より多くの児童にスポ
ーツ少年団活動を知っていた
だき、加入促進につなげたい
と考えております。スポーツ
少年団の中高校生、幼稚園児、
保育園児拡大の取り組みはス

ポーツ少年団の本部会議等で議題として出させていたいただいて、議論をして進めたいと思っております。

議員

活動場所の建物、備品の破損は誰がどう把握していますか。破損してそのままになっており、事故になり怪我をした場合を想定して、きちっと管理していくべきだと思います。私は田代の体育館を使わせていただいています。管理人はすぐく厳しくて、また使用者がルールを守ることによって物が維持されていると思っています。町の財産であるので、末長く使っていけるようにしていただきたい。

教育課長

皆様に守っていただくルールの改善を進めながら、施設の延命化ができるようにしていきたいと考えております。

議員

貧困世帯の子どものスポーツの活動をどう助成していくのか問題だと思います。スポーツをさせたくてもさせてやれないというような状況があるのではないか。滋賀県に未来基金助成金というのがあり、貧困世帯の子ども、障が

いのある子どものための支援活動とはつきりと書かれています。家が貧困であるうが、子どもに障がいがあるうが、スポーツを通してしっかりと心と体を鍛えられる環境づくりをしなければなりません。県に対して当地域の実情を勘案していただき、できることはないかという要望をしてもいいと思います。

教育課長

紀宝町独自のスポーツ少年団の支援制度を実施しております。近隣市町には同様の支援制度がないところもあります。ただし町独自の一人親世帯・貧困世帯への直接的なスポーツ関係の支援は現在行っておりません。県におきましても、貧困世帯に対するスポーツ関係の支援は現在のところ整備されていないとことです。国で子どもの貧困対策の推進に関する法律が成立し、国、県におきまして、その対策について検討が進められております。すべての子どもも等しくスポーツを楽しめる環境整備は大事だと考えておりますので、子ども貧困対策の項目にスポーツ関係の支援が整備されるよう、要望してま

いりたいと考えております。

議員

3年後にインターハイ、平成33年に国体があります。その前にオリンピックもあります。当地域から強化選手に選ばれた時には保護者、指導者は車を走らせてお金を使っている状況があります。回数が重なると結構な負担になると

思います。ある程度の旅費の助成ができないのか県にお願いできませんか。

教育課長

県にこちらの状況もきちんと報告をさせていただき、支援ができないかという要望も今後実施してまいりたいと考えております。



新宮紀宝道路

平野 美津子 議員

・新宮紀宝道路について



議員

この間、開かれました子ども議会の児童の皆さんは本当に素直な目で社会を見、そして発言されたその言葉、お年寄りに対する思い、原点にかえらなければいけないと思われました。私は今回、責任の重い一般質問を準備しました。議員生活の中で一番重い政治生命をかけたのだと思っております。この2



中能登町祭で地元ケーブルテレビの取材を受けました。

月の選挙戦の中で、「小さな声どんな声でも届けます」と公約しました。皆さんの本場に暮らしを守る声を議会に届けるということとは、どうということなのか。それで自分もそのことを認識し、絶対に怯まない精神力を養っていかないと、そういうことができないと痛感しております。国道42号線高規格道路新宮紀宝線について、今国交省はボーリング調査を行なっています。高速道路につながる大切な高規格道路です。紀宝町民に説明することが必要であると思います。国交省の予備設計に伴う町道や、排水溝設置のための町民との話し合いをどのように進めていくおつもりですか。機能回復道路が今ポイントだと思っているんです。こちらから提出しなかったら事業は進みませんと国交省はおっしゃいます。前にも3組にこれらが機能回復道路のことにならなくてお帰りになった。だから止まっていると思っ

何月何日に機能回復の設計を届け、随時どういう要望を届けているのか。住民として知りたいと思うんです。ですからそのへんのことをきちんと説明してください。

政策担当理事

平成26年7月から8月20日まで、全町民さんが見ていただける基本概略図が示されました。333件のご意見もいただいております。その中に機能回復も多数入っており、それをもとに国交省にお話しています。

議員

12日13日に私たちに見せた原図を何時届けたのですか。

産業基盤整備担当理事

9月12日13日に意見交換会をさせていただいて翌日紀南河川に届けました。12日の意見を13日にある程度反映させて、図面を更新しました。その中からさらにいただいたご意見をまとめて14日に届けさせていただきました。

議員

地域住民が要望すればそれを公開していただくと説明会を開いていただくと

解してよろしいですか。

産業基盤整備担当理事

日にちをご相談させていただいて、できるだけ説明会等は頻繁に対応してまいりたいと考えております。

議員

新宮紀宝道路建設を求め署名のお願いというのが届きました。発起人代表は紀宝町商工会会長。住民の中にはこのような声もあるということは分かっております。しかしながら、3組地域の何百人にも及ぶ住民の方の苦しみ、不安、などはこれには反映されていない。ルートについては、書いていないので、国交省が発表したので早く進めよという署名だと思えます。私たちルート変更を求める会も、住民の暮らしを守るために署名をし、6月5日に紀南河川国道事務所所長宛に陳情書を提出しております。いろんな人達が意見を交わす場を作り上げていく前に、国交省が決めたからこれでやるという町長の姿勢は、いかがなものかと私は思っております。沖縄の例や大阪の例も住民が大き

な声を出し、自分たちの暮らしを守るために立ち上がってまいります。私はこの高規格道路の特別委員会の委員長に立候補しましたが、

国交省の言うとおりに進めるといふ方が私以外の議員の総意で決まりました。私たちの会からは、特別委員会にも話を聞きに来てくださいとお願ひしましたが、名簿を出さない限りと理由も説明されず断られています。住民の気持ちを何処で受け止めているのか。今後町長はどのように高速道路の事業を進められようとしているのか教えてください。

町長

この道路のルートについては、広報で広報させていただいています。我々としては、この地域のことを考え、この道路の必要性を認識しているところでございます。用地をご提供いただきます。皆さん方も誠意を持って接していく必要がございます。生活環境は変わると思っております。そういった皆様方には、大変申し訳なく恐縮に思います。皆様方の意見を拝聴させていただ

く中で最大限努力して、そういった部分の解消に当たっていくことが私たちの努めであると思っております。

議員

町長はいつも「子どもも宝、高齢者は誇りである」とおっしゃっています。それならそれなりの取り扱いをするのが町長の仕事だと思います。議員視察は島根県の海士町です。合併をせず、高速なくたってすごい町興しをされたところです。本当に一番、紀伊半島を一周する安全な、そして物資も運べる、怪我人も運べる、素晴らしい道にしてほしい。私たちは矢渕中学校を通してくださいとお願いに行っています。いろんな選択肢があると思います。

※この他に「学校防災について」の質問がありました。



山本 精一 議員

・新宮紀宝道路について
・踏切拡幅について

新宮紀宝道路

議員

新宮紀宝道路についてお伺いします。私は先般、予備設計で予定されている路線と、矢渕中学校寄りの山林を比較検討のため踏査しましたが、山林側は用地の幅が狭く、中学校の敷地や、建物の一部が路線に干渉すると思われる。この山林には鵜殿城址、貴祢谷社、鵜殿氏一門の墓など数多くの歴史的文化財があります。歴史的文化財を引き継いだ我々が、後世にいつまでも残し伝えたいと思います。歴史的な文化財や、学校施設は原則、移転対象にならないと聞いております。これらことから、現在の予備設計をしている路線が妥当と私は思います。現在の計画路線は、いつどのように決められたのか、答弁をお願いします。

企画調整課長

熊野大橋付近の国道42号の渋滞緩和、当地域の産業発展、住民生活の向上、災害時の救援道路の確保を図るため、新宮市の住民グループ「海岸道路の建設を促進する会」が、平成14年12月に市長に対し、付近住民など396

0人の署名を手渡しました。鵜殿村では、平成15年7月に住民グループ「架け橋虹の会」が発足し、付近住民など3102人の署名を集め、平成15年11月、商工会、村長、村議会議長ら20名が三重県知事に対し、署名を手渡し、熊野川河口部への架橋を要望しました。議会におきましては新宮市、鵜殿村の両議会が平成16年1月、河口大橋建設促進議員連盟が発足しております。平成16年3月には「海岸道路の建設を促進する会」と、「架け橋虹の会」が行政・議会と連携し、「熊野川河口に橋を架ける会」を設立し、国・県・地元選出国會議員に対する要望活動により、近畿自動車道紀勢線と河口大橋の早期事業着手を訴えております。また、平成20年12月には三重県と和歌山県が協働し、熊野川下流域の道路計画を考えるアンケート調査を実施し、アンケート結果を受け、平成21年6月には、三重県・和歌山県の両県知事が国土交通省近畿中部両地方整備局に熊野川下流域の新たな道路整備に関する提案要望を提出しております。平成25年4月

踏切 拡 幅

には国土交通省が新宮紀宝道路の建設について、新規事業採択時評価を進めるための手続きに着手、社会資本整備審議会道路分工会や事業評価部会への諮問を経て、平成25年5月、新宮紀宝道路が新規事業として事業着手されることが決定されました。このように住民団体の活動や署名、行政、議会、住民団体の協働による地道な要望活動による地元機運の高まりから、住民の意向調査を経て、事業化が決定されております。ルート選定に当たっては、ルート上に企業用地、神社・仏閣、または学校等の公共施設を避け、市街地からのアクセス性を確保し、津波発生時の一時避難場所、高速道路としての走行性の考慮も行うなかで、予備設計を進めているルートが最適なルート案として国土交通省から説明されております。

議員

紀宝町役場から医療センターまで車で走りましたが、約20分かかりました。河口大橋があれば、おそらく10分以内に医療センターへ着けると思っています。脳梗塞や心筋梗塞での10分が命の分かれ目と私は

すごく感じています。私から提案ですが、当町には固定資産税の若者減税制度がありますが、これに似た税制度を創設し、家屋補償の対象者に対し、中古住宅の取得も含めた減税や、借家からの移転者に対しても、町内で移転する場合の敷金の一部補助を提案します。景観整備は、盛土部分が多いので、周辺住民の意見をよく聞いて、見た目に優しい緑化をお願いします。

町長

税の問題について、ご協力いただける皆様方に対して色々と配慮していく必要もあるという思いもいたしております。皆様から、公園設置のご意見要望もいただいております。土羽部分も含め、国土交通省の管理上の問題もございと思いますが、検討してまいります。

議員

景観に対する地元の見え方をできるだけ取り入れ、詳細設計に反映し、一日も早い開通を願っています。

以前、住民から強い要望があり、鶴殿小学校前踏切の拡幅について、質問いたしました。踏切拡幅は困難と伺っていましたが、町当局の努力により事業化できたことに地域住民も大変喜んでおります。事業化までの経過を教えてください。

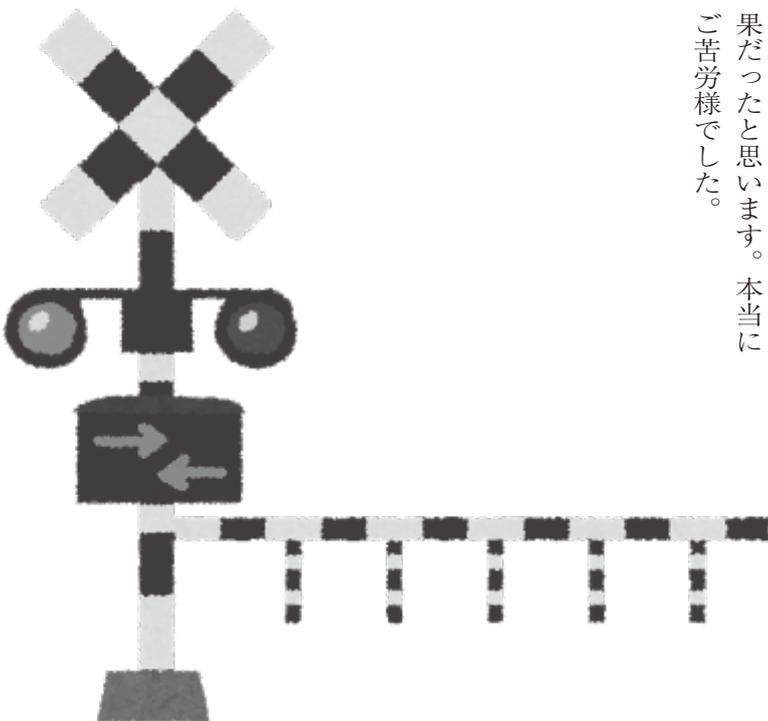
産業基盤整備担当理事

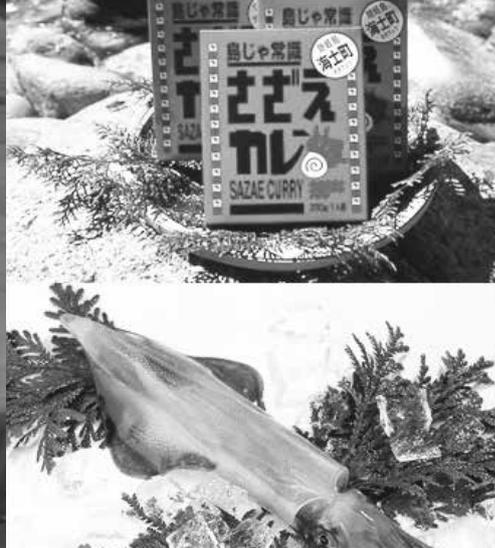
当踏切の拡幅につきましては、国鉄時代から要望を重ねておりましたが、他踏切の統廃合が条件としてあり、協議が難航しておりましたが、平成24年度に学校関係者・各道路管理者・警察等が連携し、通学路の緊急合同点検が実施され、当踏切は狭小で危険を感じるとして、要対策箇所に出出されました。平成25年6月には、紀宝バイパスが全線開通し、当踏切は紀宝バイパスと現国道42号を連絡する主要幹線道路でもあることから、住民や学校関係者からの踏切拡幅を望む声が高まっていた状況の中、国土交通省の

お力添えもあり、平成26年12月に、当踏切の交通量や安全への緊急性も高く、今後のまちづくりや区画整理等において他踏切の廃止に向けて努力することを計画協議書の中へ記載することで、鉄道事業者のご了解をいただきました。

議員

この事業化は本当に例のないことだと思います。私も正直、踏切の拡幅は難しいと思っておりますので、この拡幅は本当に当局の努力した結果だったと思います。本当にご苦勞様でした。





議員研修

研修日程 平成27年10月20日から22日
参加者 議員9名 職員5名
研修場所 島根県隠岐郡海士町
鳥取県八頭郡智頭町

研修目的

国の「まち・ひと・しごと創生」政策が、地方自治体において「地方創生総合戦略」策定の段階にある今日、紀宝町においても先進市町村の事例に倣いながら、地域の独自性が盛り込まれたより有効な戦略の策定が望まれている。町議会としても、島根県海士町・鳥取県智頭町がここ十数年にわたる率先した取組の中で著しい成果を上げていることに注目し、視察研修することによって今後の町の総合戦略がより充実したものになるようにと考え、訪問するに至った。

10月21日

海士町研修

○海士町の概要

島根県隠岐諸島の有人4島の1つである中ノ島にある海士町は、本土から約60キロ離れた人口約2千3百人の小さな離島である。本土からは大型フェリーか高速船で2〜3時間かかり、冬場は海が時化の為に欠航することが多く、交通遮断により本土からの新聞や食料等物資の供給が途絶え、また人も足止めとなることもあるほど厳しい自然環境の下にある。しかし対馬海流の影響を受けた海域は豊かな海産物に恵まれ、古くから漁業が盛んな地域でもあった。豊富な湧水

と平地を利用した稲作も盛んで、食料を自給自足できる半農半漁の町でもある。また1221年承久の乱により後鳥羽上皇がご配流の身となられ、在島19年有余の後、生涯を終えられた地でもある。その他多くの歴史・文化遺産をはじめ海士町を含む隠岐全体には独自の生態系が残されていることもあり、平成25年には世界ジオパークに認定され、今後の観光振興という点が新たに課題となっている。

この町のロゴマークとなっている『ないものはない』という言葉が昨年9月の安倍首相の所信表明演説の中で紹介されたのを機に一躍注目を浴びるようになったこと、昨年6月には当時の総務大臣が視察されたほか、年間2000人近くの人々が遠路はるばる視察に訪れているという。なぜ遠隔の地がこれほど注目されているのか、少子高齢化の過疎の町が、なぜ「地方創生の最先端」とまで言われるようになったのか、その独自のまちづくりの経緯と島でも注目されている。

○地域再生へ、島ならではのモノづくりと雇用促進及び島の活性化への取組について

若者の島外流出による極端な少子高齢化や人口減、また1次産業の低迷や公共投資が急激に縮小される中で、町の借金が102億円にも膨らむ財政危機に直面していた。平成11年第3次海士町総合振興計画「キンニャモニャの変」の始動とともに、財政健全化への取組が始まり、合併せず単独町政の道を選択した後、平成16年には「海士町自立促進プラン」を策定し、町の危機を町再生のためのターニングポイントとすべく大胆な「攻めと守り」の施策を展開してきた。「守り」は人件費削減等の行財政改革で、同時に「海士町子育て支援条例」の基で子育てしやすい町づくり施策を展開しつつ若者の移住・定住化を促進してきた。「攻め」は「交流促進課」、「地産地商課」、「産業創出課」を設置し、「島まるごとブランド化構想」に基づく官民一体となった産業振興と人口増計画である。この島ならではのモノづくりによって1次産

業の再生を図り、「島じゃ常識さぞえカレー」の商品化、養殖岩がき「春香」や黒毛和牛「島生まれ、島育ち、隠岐牛」など、海士ブランドの特産品を次々と誕生させて本土の「外貨」獲得につなげ、新たな雇用も創出できたとのことであった。特筆すべきは平成16年に導入した鮮度を保つ特殊な冷凍技術（「CAS」システム）によって、岩がきや白いかをCAS凍結した冷凍加工食品は離島の物理的ハンディキャップを感じることなく首都圏を中心に海外にまで販路が広がっているとの事であった。これら数々のアイデアによって雇用機会が増えたこと、明るくたくましい島民性に惹かれて都会から移住する若者が増え、イターン移住が437人（294世帯）に達した今、「よそ者」と地元民との交流から生まれるパワーや柔軟なアイデアが、今の海士町の元気の源になっているとのことだった。

○再生の原点はヒトづくり
「隠岐島前高校魅力化プロジェクト」について

島の再生におけるもう一つの注目すべき点は隠岐島前高校の学校改革を中心とする島のヒトづくり施策である。島前地方（中ノ島、西ノ島、知夫里島）の人口は合計6千人ほどにまで落ち込み、島前3島から通う県立隠岐島前高校の入学人数は平成10年には70人ほどであったが同20年には17人にまで落ち込み学校存続の危機にあった。高校が無くなれば島から若者が消えるばかりか、子どもを持つ世帯の流出やU・イターンの減少に直結するのは明白で、地域づくりと連動した高校改革を行うために「隠岐島前高校魅力化プロジェクト」が発足したとのこと。特色としては①地元3島（3町村）の地域総がかり支援体制があるということ、②「地域創造コース」を設置し、ふるさと教育をベースにした課題解決型の授業により「グローバル人材」の育成を図っている事、③「特別進学コース」を設置し難関大学への進学も視野に入れた教育を実施している事。また公立塾「隠岐の國学習センター」を設置し大学進学をはじめ多様な学習要望に対応して

いること、④「極上の島留学」制度の創設等により、島外からの入学生の増加が挙げられる。留学制度は単に生徒数の増加だけでなく、全国から意欲の高い多彩な生徒を受け入れることで良い刺激をもたらす、異文化の中で協働する力を養っていくという利点もあるとの事であった。

このプロジェクト開始後生徒数は平成20年の89名から同26年には156名となり、過疎地の高校としては異例の学級増に繋がったとの事。また本年度東京都で行った島留学説明会には百名を超える参加者があったとの事で、今後も増加傾向にあるとの事であった。海士町は地域総がかりで島全体を学校と捉えた独自の教育を一層推進することで「教育の町・海士」としてのブランド価値を高める中で、

子ども連れ家族のU・イターンや定住促進にもつなげていきたいとの事であった。

○研修のまとめ

海士町の経営指針は『自立・挑戦・交流』との事である。CASによる水産加工工業や畜産業といった主軸ブランドの産業振興に継続して取り組む一方で、「ヒトづくりこそ島づくりの核心」との考えの基で、地域資源を守り生かしながら地域の人材を育て、且つU・イターンの促しながら地域ぐるみのグローバル教育に取り組んでいる様子と、持続可能な島にしていくための創意ある取り組みの一端を見せていただいた。

月に発足し、熱心に活動をされているとのこと、海士町はいまだ発展途上にあり、今後ますます成長し続けそうなお印象を受けた。

『ないものはない』と素朴な文字で書かれた海士町のロゴマークが入ったポスターをあちこちで目にしたが、『便利なものではなくても良い、生きるために大事なものは全てここにある』という文字が、人が人として生きるための原点のように思われ、日々の生活を考えさせられるような気がしたのは私だけではなかったと思う。国からの視察の中で、これまで「失敗はなかったですか？」という質問に対して町当局は、「あきらめなかったら、失敗は失敗ではない」と回答したという話が印象に残った。



10月22日

智頭町研修

○智頭町の概要

智頭町は、鳥取県の東南部に位置し、西と南は、岡山県に接する山間地域にあり、町の南部を中国山脈が走り、東山、沖ノ山など1300m内外の諸峰が急峻な地形を形成し、北股川、土師川などの川が合流し千代川となって、日本海に注がれている。

町の面積の93%を山林で占め、年間平均気温は、12.6度と比較的温暖であり、降水量も年間1900ミリ内外で、積雪量は、町の中心で36センチ、奥地では、1〜2メートルで、雪の多いのが特徴。中国地方の山深い盆地の中で、ひっそりとしたたたずまいの町である。

に富沢村、昭和29年に山郷村と合併して、現在の智頭町となっている。

交通の面は、JR因美線・智頭急行智頭線が南北・東西に走り、国道53号・373号により、岡山・京阪神方面と接続している。鳥取自動車道においても、智頭町にインターチェンジが設置され、交通の利便が図られている。大阪まで鉄道、自動車共、約2時間と便利である。

面積は、224.61km²。平成27年4月1日現在の人口は、7614人、世帯数は、2755世帯である。

智頭町は、これまでの、様々な活動に対し、自治大臣表彰の受賞や各種マスメディアなどで紹介されており、最先端の町おこしを行っている。

○歴史と文化を

残したまちづくり

平成9年頃から歴史と文化を残した観光に力を入れはじめ、そのための象徴的なものとして、鳥取藩最大の宿場町であった智頭宿で威容を誇った国指定重要文

化財の石谷家住宅を持ち主から、無償で譲り受け、観光のシンボルとして活用している。又、昭和30年ごろの建物、車が入れない道路をそのまま残した板井原集落も、昔にタイムスリップしたような気分が味わえ、今日失われつつある山里の原風景が見取れる、全国的にも数少ない山村集落である。大部分の建物が、50年以上経過しており、中には約300年経過した建物もある。これを活用して古民家カフェをつくった。智頭町の中心から車で約15分かかる山の奥にあるが、鳥取県東部で1番はやつているといわれたこともある。

○日本ゼロ分のイチ村

おこし運動

智頭町では平成9年度から「日本ゼロ分のイチ村おこし運動」を行っている。これは、地域の魅力と活力を維持、拡大するために住民自治力を高めること、さ

らに住民一人ひとりが一歩を踏み出し、外部との交流を促進することで、心豊かで誇り高い智頭町を作り上げることが目的としていることとした。地域ごと10年後のあるべき姿の計画書を作成、その10年間の活動に対して支援をするというもので、集落から地区に、地区から町へとという流れをつくらなければ町は維持できないという考えからはじめた。智頭町には大小87集落が存在し、それぞれの自治力が向上することで、全体の底上げに繋がっている。この長年培った住民自治力は、他のどの自治体にも負けない「智頭町らしさ」を表していると言えるところのことでした。

○百人委員会

「知恵がなければ人から借りる」と言う考えから生まれた「百人委員会」は、単なる政策提言に終始せず、予算化を行い委員自らが行う取り組みである。町民が参加した7つの部会をつくり、各部会は、企画書、予算案を作成し、町長に予

算要求をする。これまでに、森のようちえん、ハイカラプロジェクト、木の宿場事業などが誕生した。この取り組みは、全国の自治体から注目を集めているが、年数が経過すると共に、事業内容、委員の固定化、単年度事業が課題になっている。新たな取り組みとして、中学生、高校生が参加する百人委員会を設置し、この中で、中学生からは、ワンダフルピープル、高校生からは、ちろりんショップなどの提案があったとのことでした。

【百人委員会から提案された主な事業】

・森のようちえん

1950年代デンマークで生まれた野外保育のスタイルで、園舎を持たない。春夏秋冬、毎日森に通い一日の大半を過ごす徹底した見守る保育で、自主性を大切にしている。森のようちえんで育った子は体力がつき、病気に強く、自立が進み、コミュニケーション能力などが優れているといわれている。また、ここ数年日本

全国でも急速に広まりつつあり、智頭町森のようちえん「まるたんぼう」では、その中でも徹底した見守りと行政との連携で、平成22～26年で森のようちえんを目的とした移住者数が47名となり注目されている。

・ハイカラプロジェクト

大正時代の着物を着て町をねり歩く。クラシックカーも参加する。子ども達向け紙芝居もあり、町のイベントとして定着している。

・木の宿場

自分の山の間伐材を運び出し、重量に応じて、町内商店で買い物できる地域通貨を発行している。山の保全のために考えたが、店主からは、今まで買い物にきたことがない山の人が来てくれるようになった。

・米をつくりながら国際交流
子どもからお年寄りまで皆で協力し米をつくってアフリカに送る事業。子ども、お年寄り、鳥取大学留学生、又、お札に來られたアフリカの大使との交流ができた。

・ワンダフルピープル

智頭町の達人ピックアップ図鑑。この図鑑を通して、

子ども達は、達人から様々なことを学ぶ。

・ちろりんショップ

憩いの場として、店を町が借り上げ、高校生が運営する。

○疎開保険

都会等で地震等の災害が発生した場合の安全・安心が確保できる生活場所を提供しようとするもので、災害発生時に生活を余儀なくされるストレスの多い避難所から智頭町へ「疎開」し、1泊3食7日間生活できる所と食事を確保し、都市住民の災害時の備えに対応する保険である。災害を切り口とした地域間交流、物流、商流による地域おこしの一環として展開している。また、保険に加入すると、特産品として今まで市場に出なかつた高齢者の作る小ロットのホンモノ農産物を都会の消費者へ送り、地域間交流への発展させる取り組みが注目であった。

○森林セラピー

智頭町は山林が93%あり、この山林を生かして何かで

き無いかと開発されたのが癒やし効果を提供し、森林浴の一步先に行く森林セラピー。森林浴との違いは、森を歩いて良い気持ちと感じられるのが森林浴。森林セラピーは、医学的にリラクセス、ストレスがどのように変化したか医学的なデータを用いて効果があると

いえるのが森林セラピー。森林セラピーは、最初にストレス度チェックをし、森林を歩き、森の中で抹茶を飲むとかハンモックで寝るとか、様々な事を行いリラクセスをし、最後に又ストレス度チェックを行いどれくらいの効果があったかをみる。智頭町で森林セラピーをするトリラックス度が5日間継続するといわれているが、都会に帰っても効果が持続するように、東京新宿御苑、大阪万博公園にも智頭町の森のガイドを置いて行うことができいか進んでいる。こういう取り組みは、智頭町独特のもので他のところではやっていない。又、森林セラピーに

来た人を町内に宿泊させるため民泊協議会を立ち上げ

た。飲食店には、地元産食材使用、カロリー、塩分などを定めた、森林セラピー弁当を提供してもらっている。企業にも森林セラピーを売り込んで広めようとしているとのことでした。

○研修のまとめ

智頭町は、森林が93%を占める。この置かれた、現実を上手く利用して、歴史と文化を残したまちづくり、森のようちえん、木の宿場、疎開保険、森林セラピーなど自然を生かした取り組みを多く行っている。

日本ゼロ分のイチ村おこし運動で町民支援を行い、百人委員会で町民からのアイデアをもらって先進的な事業を行っている。「楽しみながら、いなかの現状をしっかりと見つけ、あるものの可能性を最大限に生かす」ことを考えてまちづくりを行っていると感じた。何もしなかつたら、停滞するだけの過疎地の中で、住民、行政、議会が3輪車として、しっかりと歩いている。



智頭町石谷家住宅

次回定例会の予定

12月15日（火）開会予定です。
傍聴は議会事務局で受付ています。

議会生中継について

公共施設5ヶ所のロビー等において、町議会本会議の様を生中継していますので、議会日程をご確認のうえ、ぜひご覧ください。

- ① 役場本庁舎
 - ② 生涯学習センターまなびの郷
 - ③ 福祉センター（鶴殿）
 - ④ 保健センター（神内）
 - ⑤ 相野谷診療所
- ※放映時間については、当該施設開館時間内となりますので、ご了承ください。

インターネット録画中継について

町議会では開かれた議会を目指して、平成23年6月定例会分からインターネットによる録画中継を実施しております。映像をご覧頂くには、
◎紀宝町ホームページ「町議会情報」↓
「インターネット議会中継」をクリック

可決された議案（9月）

- 紀宝町個人情報保護条例の一部改正
- 紀宝町半島振興対策実施地域における固定資産税の特例措置に関する条例の一部改正
- 紀宝町手数料条例の一部改正
- 紀宝町立学校設置条例の一部改正
- 平成27年度一般会計補正予算
- 平成27年度紀宝町診療所事業特別会計補正予算
- 平成26年度決算の認定
 - ・ 一般会計歳入歳出決算
 - ・ 国民健康保険特別会計歳入歳出決算
 - ・ 後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算
 - ・ 診療所事業特別会計歳入歳出決算
 - ・ 井内地域開発事業特別会計歳入歳出決算
 - ・ 町営浄化槽整備推進事業特別会計歳入歳出決算
 - ・ 水道事業特別会計決算
- 紀宝町議会会議規則の一部改正

編集後記

近年の気象（気候）は、台風、大雨、洪水、竜巻、猛暑、寒波そして地震、津波、火山活動等々、私達にとって考えられないような被害が出ています。台風が襲来する度に井田海岸は、痩せ細り、大量のゴミ、流木が打ち上げられています。これから20年～30年の間に、紀伊半島沖で大きな地震が起こるであろうと予測されています。この地震は必ず津波を伴うことから、常日頃から防災意識を高め、備えていきましよう。地球規模で環境が変化（温暖化）しているようですが、人類が英智を結集すれば、希望ある未来になると信じます。

皆さん、良いお年をお迎え下さい。

（文責 萩野）

「議会だより」（36号）

編集委員 市川 潔

山本 精一

萩野 進也

